

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」北海道訴訟(札幌高裁)第1回期日(20211223)提出の書面です。

令和3年(ネ)第194号 損害賠償請求控訴事件「結婚の自由をすべての人に」

控訴人ら 番号1外5名

被控訴人 国

## 意見陳述要旨

2021(令和3)年12月23日

札幌高等裁判所第3民事部1係 御中

控訴人番号1番

私は、同性パートナーと付き合い始めて18年になります。2002年11月17日から付き合いはじめ、その2年後から同居しています。出会ったのは札幌ですが、転勤などがあり現在は帯広市内で暮らしています。

私は三重県で生まれ、同性愛者であることを自覚したのは中学生の時でした。大学生になり同性愛者の仲間と関わる中で、同性愛者でもいいのだと、自分の性的指向を肯定的に受け入れられるようになりました。大学卒業後に札幌に移住し、同性愛者への差別や偏見をなくすための活動をしてきました。そんな中、今のパートナーと出会いました。出会ったその日から付き合い始めて、今に至ります。

私たちは、婚姻した異性愛者のカップルとなんら変わりのない暮らしをしています。パートナーの作った料理を二人で食べて、買い物も二人で行き、休みの日は旅行にも一緒に行きます。二人で笑うこともあれば、ささいなことでもけんかもします。彼の存在は、私の人生の中でかけがえのないものです。

しかし、私たちは日本では婚姻することができません。20年近く連れ添っているパートナーも、法的には他人です。例えば彼が病気で倒れた時、法的な関係のな

い私は、病院で付き添いを断られるかもしれません。彼の病状を聞くことができないかもしれません。日々の暮らしの中ではそれほど意識することはありませんが、いざというときに私たちの関係が認められない不安は、ずっと感じています。

2021年3月17日、札幌地裁は同性間で婚姻を認められないのは、法の下での平等を規定する憲法第14条に違反すると判断しました。私はこの判決を聞いて、涙が止まりませんでした。これまで同性愛者であることを肯定的に受け入れてきた自分も「異性愛と同性愛は性的指向が違うだけである」と明言されたことは、私に改めて生きる力を与えてくれたように感じました。そして、同性間の婚姻が認められないことが憲法違反であるとの判断がはっきりなされたことに感動し、私たちのこれまで18年の関係が認められ、婚姻への道を開いたと感じました。

しかしながら、地裁判決では立法や行政は動こうとはしていません。為政者は、制度よりも先に理解促進が必要であるとし、同性間の婚姻制度の創設には否定的な立場を崩していません。司法で憲法違反であるとの判断が下されたにもかかわらず、制度創設に向けた動きが一向にないことに、大きく失望しました。そのため、私たちは上級裁判所での審理を求めて、控訴しました。

地裁判決では、憲法第14条違反であることが示されました。私たちはその判断を高く評価します。一方、立法不作為による損害賠償は認められませんでした。同性間の婚姻制度は、日本でパートナーシップ認証制度が始まる前から各国で認められていました。国会がその必要性を認識する期間が短かった、ということはないと思います。また憲法第24条についても、男女間のみではなく同性間で婚姻できると解釈をすることは可能であると考えます。

同性間の婚姻制度が認められることで、いまだに差別や偏見が根強くある、同性愛者への見方が大きく変わると考えます。同性愛者は今まで、婚姻制度がないことによって、カップルであっても将来を悲観して関係が長く続かなかつたり、周囲の目を感じて、望まない異性との婚姻をしたりして、苦しい思いをしてきました。しかし制度ができることで、将来に希望を持って生きていくことができるのです。

今日は、私の両親が、三重県から傍聴に来ています。私が 23 歳の時にゲイであることを告白したとき、私の母は「ゲイであろうがなんだろうが、私の息子であることに変わりはない」と言いました。その言葉が、私の心をどれほど軽くしたかわかりません。両親は、私たち二人の生き方を今に至るまで、ずっと応援してくれています。婚姻制度がなく、法的には他人である私たちの関係を認め、パートナーを家族として接してくれています。私たちの婚姻が認められることは、私たちだけでなく、両親をはじめとする家族の安心にもつながるのです。

私たちは、札幌地裁の判決に大きく勇気づけられました。何より、私たち同性愛者の存在が改めて認められ、二人の関係を認められたこと、本当に嬉しく思いました。

どうか、裁判官の皆様におかれましては、地裁判決をふまえ、同性愛者の生きる希望となる判断をしていただきたいと思います。

以上